

同性愛者に対する寛容度の日中調査 —BL 作品が好きな腐女子を対象にして—

Wang Jiaying

「世界価値観調査 2010」によると、過去に日中で同性愛者に対する寛容度に大きな差が示された。10 段階評価の場合、日本の得点は 5.1、中国の得点は 2.2 である。調査対象者の年齢を 20-29 歳と限定する場合、日本の若い世代の得点は 7.14、中国の若い世代の得点は 2.73 である。日中の寛容度の差はさらに広がった。

BL 作品の進化に伴い、腐女子は従来の異性愛規範とホモフォビアから解放されたと指摘されている（溝口，2015）。それに対し、世界価値観調査のデータを腐女子に適用して説明した先行研究はまだない。そのため、本研究では、現在中国の若い腐女子と同じ世代の日本の腐女子を調査し、恋愛観における寛容度と家庭観における寛容度がどのレベルにあるかを明らかにする。BL 作品とは男性同士の恋愛関係を描写する漫画や小説であり、それらを愛好する女性を腐女子と呼ぶ。

5 名の調査対象者（中国人 3 名，日本人 2 名）にインタビューを実施し、結果として、この 5 名は BL 作品を読んでから現実世界の同性愛者への関心を抱くようになったことが分かった。国籍を問わず、伝統的な家意識にほぼ反対しており、墓参りをする際に「墓を守る」ことより、個人の感情的ニーズを満足できることを重視している。このように、日中の若い腐女子の間で、親世代の家意識と「墓を守る」意識は継がれず、結婚と生殖を分ける考え方を核とする新しい家庭観が形成されていることが明らかになった。また、恋愛観における寛容度は圧倒的に高いが、同性カップルによる子育ての希望の是非にふれると、A さん（中国人，異性愛者）と E さん（日本人，異性愛者）の態度が曖昧になる傾向が見られた。この 2 名は、第三者の視点から同性カップルの子どもが学校や社会において、同性愛者と同じように差別される可能性があると言った。その他に、A さんは女性の立場から、同性カップルが代理出産を使うことに容認できないと言った。B さん（中国人，異性愛者）は同性婚の合法化を支持している一方で、法学徒として、早急な合法化は不寛容な第三者と同性愛者との対立をさらに激化させると指摘している。

今回のインタビュー結果をまとめると、日中の腐女子にはとも本質的に一見不寛容なところも存在するが、第三者の視点を獲得し活用しているという部分が大きく、不寛容な立場に立っているとは見なされない。したがって、溝口の言う、日本の腐女子は、BL 作品を愛好することによって、同性愛者の恋愛関係について好意的な目を向けるという知見は、中国の腐女子にも該当すると考察できる。それゆえに、中国の腐女子も家意識を無理に同性愛者に押し付けず、日本の腐女子と同じように、同性愛者の恋愛と結婚に対する寛容度が高いと言える。

（指導教員 後藤嘉宏）